

里山の再生をめざして

自然観察会のフィールドになつてい
る南部丘陵公園には、コナラなどの落葉広葉
樹の里山が残っています。長い間放置され
ていたため、林の中は暗い状態になつてい
て、そのうえナラ枯れが目立ってきました。
暗い林の中では他の植物は育ちにくく、
明るい林の中を好む昆虫などの生き物の
数が減ってしまいます。

そこで「観察会ができる里山を取り戻そ
う」と、3年前から寺田さんが所属する四
日市自然保護推進委員会と他団体が協力
して、暗くなった林を小面積ずつ皆伐する
という方法での里山整備を始めました。



- 1 里山の整備を始めた頃の伐採作業の様子。伐採した木材は薪などに利用しています。
- 2 コナラの伐り株からは新しい芽が出て(萌芽)、成長しています。
- 3 アカマツの実生(みしょう)。羽根のついた種子は風に乗って落ち、芽が出ます。長い時間をかけて、里山の再生を目指しています。



観察会では明るくなった里山の

中へ入り、暗い里山との違いを体感
しました。この里山がどのように変
化していくか、観察していくことも
今後の観察会の楽しみのひとつで
す。人が手を入れることによつて
維持されている里山のように見え
ることで「人と自然のかかわり」を
学ぶことができました。

このように自分たちのフィール
ドで自然観察を続けていると、地域
の課題が見えてくることもありま
す。それを見越さずのではなく自分
の問題として解決していこうと、
寺田さんたちは仲間と協力し合い、
活動しています。

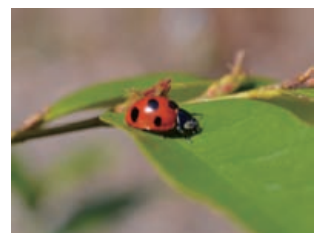
自然観察指導員になりませんか

寺田さんのお話には、これから自然観察
指導員を目指す人にとつて、ヒントになる
ようなことがたくさんありました。「自然
観察指導員」というと、人に指導したり教
えたりするのは自信がない、と躊躇する人
もいるでしょう。しかし自然が好きなら
であれば、誰でも自然観察指導員になるこ
とができます。なにより「みんなで一緒
に観察会を楽しみましょう！」という姿
勢を持つことが大切です。

まずは近くで開催されている自然観察会
に参加してみることをおすすめします。すで
に活動している仲間の中に入って、自分の得
意な分野でお話することから始めます。自
然に関する知識も求められますが、一方的な
解説だけで終わるのではなく、参加者が観察
を通して体験することが重要です。

例えばテントウムシを見つけた子どもに
すぐに種名を教えるのではなく、さらに特
徴を見つけて調べてみようかと促します。も
し先に種名を知ってしまうと、それ以上観
察するのをやめてしまうことがあるからで
す。自分から興味を持つて観察することで、
新たな発見につながる可能性もあります。

また動植物の種名がわからなくても「そん
なものがあったんだ！いいところに気がつい
たね。何か調べてみようか。」という一言で、



「ナナホシテントウ」は、7つ
の黒い斑点があるのが特徴です。
これによく似た「ナミテントウ」
は個体によって斑紋の数や色が
違います。特徴を知って観察し
てみるとはつきり違いがわかり
ます。

子どもはその生き物の特徴をもつと
よく観察しようとしています。

寺田さん「同じフィールドで何
度も観察会をしていても、初めて出
会う生き物や植物があります。自然
の中では、まだ知らないことがいっ
ぱいです。」

自然観察会は勉強会ではなく、「大
切な自然をどうやったら残せるか」
を訴えかける具体的な手段のひとつ
です。地域で自然を守っていく人
の心づくりにもつながっています。

今秋、「NACSJ自然観察指導
員講習会」が三重県で開催されるこ
とになりました。講習会では自然
保護の考え方や自然の見方などを
学んでいきます。豊かな自然を次
の世代へとつないでいく仲間に、あ
なたもなってみませんか。